

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4099300024		
法人名	有限会社 祝		
事業所名	グループホーム 桜木荘		
所在地	〒824-0601 福岡県田川郡添田町大字庄2549番地の1 Tel.0947-82-3773		
自己評価作成日	令和02年03月05日	評価結果確定日	令和02年04月07日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に根差した施設を基本にして家庭的なアットホームな施設が売りです。食事もすべて手作りで利用者からも好評です。施設の周囲は山に囲まれとても静かな環境に位置して野生動物などがみられます。生活面も本人様の意向を大事にして取り組んでいます。健康面も掛かり付け医が週1回往診に来られて他の病院とも連携を図っています。その他理容・訪問マッサージ・訪問歯科などのサービスも行っています。24時間安心なホームの体制を構築しています。ボランティアの受け入れや地元の小学校の体験学習なども受け入れています。開かれた明るい雰囲気や身体拘束など一切なく、常にオープンで玄関も施錠はしていません。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel.093-582-0294		
訪問調査日	令和02年03月25日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「桜木荘」は認知症高齢者が住み慣れた地域の中で、安心して暮らせる事業所を目指し、9年前に開設した定員9名のグループホームである。ホームドクターによる定期的な往診と緊急時対応の医療機関の看護師、介護職員との連携で24時間安心の医療体制が整い、これまで数名の看取りを行っている。小学校の体験学習やボランティアを受け入れ、ホームの行事に近隣子ども達が参加する等地域交流の輪が広がっている。ホームの畑で採れた野菜を使って、調理担当のベテラン職員が作る美味しい料理がホームの自慢で、利用者や職員と一緒に同じ食事を完食して、利用者の元気の源になっている。開設時から管理者を中心に、代表の願いである、「家庭的なホーム」「利用者第一」の実現に向けてチームワークで取り組み、家族の信頼も厚いグループホーム「桜木荘」である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、日常的に戸外へ出かけている (参考項目:51)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:32,33)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関・事務所に理念を掲げて以前は朝の申し送りの時間に職員で唱和し理念に基づいた介護を心がけていたが、現在は唱和はしていない。	ホームの理念とモットーを玄関や事務所に掲示し、職員一人ひとりが理念の意義や役割を理解している。また、管理者は、理念に基づいた介護が出来ているかを常に確認し、利用者が笑顔で楽しく生きがいのある毎日が過ごせる支援に取り組んでいる。	申し送り時や職員会議等で理念を唱和し、理念やモットーに沿ったサービスが提供出来ているかを振り返り、意識づけを行うことを期待したい。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域密着型なので地元の区長・役場とも連携をとり地域の行事など参加できるように取り組んでいる。地元の小学校とも交流して体験学習や運動会などに取り組んでいる。	小学校の体験学習やボランティアの受け入れやホームの行事に地域の子どもが参加する等、地域密着型事業所として地域交流の輪を広げている。管理者の地元であるので、地域の行事や活動の情報が得やすく、町の敬老会や小学校の運動会へ利用者が参加している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域に対しては認知症の理解や支援の方法などはなかなか進んではいない。地域の方々からの施設への受け入れの相談や要望には快く応じている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2か月に1回第3水曜日に開催している。地元の行政区長・役場の職員・ご家族・地域包括の職員が参加され施設での生活状況・事故報告・行事報告など行い意見や要望など伺いサービスの向上に努めている。	複数の家族、地域代表、行政職員、地域包括支援センター職員参加を得て、2ヶ月毎に運営推進会議を開催している。年2回は家族会を兼ねて日曜日に開催し、家族が気軽に参加できるよう配慮している。ホームの運営や取り組みを報告し、参加者からは質問や要望、情報等が提案され、ホーム運営に反映されている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	役場の介護保険福祉環境科には時々足を運び連携をとり協力関係を築いている。また広域連合や地域包括支援センターの職員にも施設の相談や指導を仰いでいる。	運営推進会議に行政や地域包括支援センター職員の参加を得て、アドバイスや情報提供を受け、協力関係を築いている。管理者は、行政窓口に出向き、ホームの空き状況や事故等を報告し、介護の疑問点や困難事例を相談する等、行政と連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	桜木荘では身体拘束は一切行っていない。玄関も常に開けており施錠はしていない。オープンな施設として取り組んでいる。	年間研修計画の中で身体拘束について、職員が学ぶ機会を設け、禁止行為の具体的な事例を検証し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関は日中は施錠せず、帰宅願望のある利用者は見守りを強化し、外に出られても本人が落ち着くまで後ろから見守りながら支援している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	理念に基づいた介護を基本にしてあり優しく丁寧に、利用者に接している。職員会議などで虐待防止に向けた話もしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	以前は成年後見人制度を利用していましたが現在はありません。職員も入れ替わり人数も少ないため、学習する時間がとれずに話し合う事ができない状況ですが制度の活用を支援する体制は出来ています。	内部研修の中で権利擁護の制度について学ぶ機会を設け、資料やパンフレットを用意し、必要時には関係機関と連携しながら制度を活用出来る体制を整えている。過去に成年後見制度を活用した利用者がいたので、管理者は、制度の内容を理解して利用者の権利が被害を被らないように取り組んでいる。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前に十分な説明を行い締結時にも再確認をしている。解約時や改定等の時は利用者様やご家族の不安や疑問点を尋ね十分な説明を行い理解・納得をしていただいている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	常日頃から利用者様やご家族に意見や要望を聞くようにしている。それら吸い上げた意見や要望を今後の施設の運営に反映させるように努めている。	職員は利用者の思いや意向を聴きとり、家族の面会時や電話の時に、家族と話し合いながら意見や要望を聴き取り、ホーム運営や利用者の日常介護に反映させている。また、年2回家族会を兼ねた運営推進会議を日曜日に開催し、要望を聴き取っている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の業務の中で気付いた事はその日に管理者に伝え会議での意見や要望・提案を施設の運営に反映させている。	職員会議を毎月定期的に行い、休みの職員も出来るだけ参加して、話し易い雰囲気の中で活発な意見交換が行われている。出された意見は出来る事から速やかに反映させている。また、毎日の業務の中で職員の気付きや意見はその都度管理者に報告し、解決に向けて取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	そのように努めてはいるが個々の職員の希望どうりには出来てはいない。給与水準もいまだに低いと思う。給与が上がれば向上心も上がると思う。職員同士の人間関係などもありそれぞれ愚痴や文句などもある。職場環境・条件の整備には努めている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についてもその能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	性別や年齢などの理由で採用から排除する事はない。本人のやる気と介護に関心のある人を採用するようにしている。また個々の職員がいきいきと、やりがいをもち勤務出来るように努めている。	職員の採用は、年齢や性別、資格等の制限はなく、採用後は新人研修や内部研修を継続して行い、職員の介護技術の向上に取り組んでいる。管理者は、職員の特技や能力を把握し、適材適所に役割分担し職員が生き生きと働きやすい職場を目指している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	職員会議や申し送りなどで利用者様の人権について話し合っている。	利用者の人権を守る介護の在り方について、職員会議や研修の中で学んだ職員は、利用者に対して言葉遣いや対応に注意し、その都度現場で話し合い人権尊重に取り組んでいる。職員は理念を常に意識し、「自分らしい生活」「生きがいのある毎日」を目指した介護サービスに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	今現在も職員不足で日勤者が足りていない為、なかなか外部研修に参加させたくても参加できてはいない。出来る限り研修には参加できるように努めてはいる。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	田川市郡の介護施設の同業者が集まる専門部会がある。その会合に管理者や職員が参加して交流をしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	電話での問い合わせ時、見学時から本人が困っている事、不安な事、要望など聞くようにしている。本人が安心して生活が出来るように努めている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者や職員はご家族対応時には施設に対して不安な事や要望を常に聞くように努めそれを管理者・職員間で連携している。本人が安心して生活が出来るように努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人様とご家族の要望を聞き満足できるように職員間でも連携を保ちながら今一番して欲しいサービスと他のサービス利用も含めて対応に努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人様が出来る事はしていただき時には料理の下準備などもしていただいている。洗濯物も各自、畳んでいただく事が日々の日課に		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	支援していく上で常にご家族様とは連携をとっている。わからない事は相談をして共に悩みながら利用者様を支援していけるように協力関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人や馴染みの方の面会時には共にお茶やおやつを食べながら楽しく過ごしていただいている。関係を大事にして途切れないように努めている。	利用者の友人や近所の方が来訪し、利用者とは懐かしい時間を過ごし、「また会いたいね」と声を掛け合っている。地区の神幸祭の山笠がホームを訪れ、昔ながらの行事を見物する機会を持つことで昔を思い出し、ホーム入居で馴染みの関係が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	孤立しないように常に見守り・声掛けを行いホールでの利用者様同士の会話にも職員は耳を傾け行事やレクリエーションに参加していただけるように努力している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了してもこれまでの関係性を大切にしている。必要に応じて連絡などあればご本人・ご家族様の経過をフォローし、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人やご家族様に要望を聞き希望、意向に沿った支援に努めている。一人ひとりの思いや暮らし方を大切に困難な入居者様は本人本位で対応している。	職員は利用者とコミュニケーションを取りながら、思いや意向を引き出し職員間で共有し、日常介護に反映させている。また、意志を伝えることが困難な利用者には家族と話し合い、職員が利用者寄り添い、明るい笑顔で話しかけ、利用者の表情や仕草から思いに近づく支援を行っている。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過などは寄せられた情報をもとにアセスメントして職員全員で共有し支援に努めている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日を通して利用者様の過ごし方、心身状態など職員間でその都度申し送りながら記録もして同じ情報を共有している。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人がより良く暮らすために課題とケアは職員会議・介助時、ご家族との話し合いでも意見交換、アイデアを出しあって現状に応じた介護計画を作成するようにしている。	職員やケアマネジャーは、利用者や家族の意見や要望、気になる事を聴き取り、担当者会議の中で話し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の重度化や状態変化に合わせて、家族や主治医と話し合い介護計画の見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	業務日誌・個別の介護記録・申し送り記録・バイタル記録・水分摂取量・排泄の記録など職員間で共有し気付いた事、工夫、見直しなどあれば行いながら日々の介助に生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族が来園された時や電話などの対応の時などに可能な限り管理者や職員は意見や要望を聞いてその時のニーズに応えるようにしている。臨機応変な柔軟な対応を心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	行政区・役場・地元の小学校・本人が望む医療機関など一人ひとりのあらゆる資源を把握して協力関係を築きながら利用者様が安心して笑顔で楽しく生活が出来るように地域資源を活用して支援に努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前にご本人・ご家族様と話し合い希望される掛かりつけ医、主治医を決めている。納得が得られた訪問医師は毎週水曜日に往診に来ている。必要な時は専門の医療機関や24時間対応の訪問看護のサービスにも対応して支援に努めている。	入居前に利用者や家族の希望を聴きながら主治医を決めている。定期的な往診体制が整っている協力医療機関の医師と医療機関の看護師、介護職員の連携で、安心の医療体制が整っている。他科受診は、家族と協力しながら職員も同行し、利用者の医療情報の共有に努めている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師や往診の主治医に日々の生活の中で気付いた事や変化などあれば伝え職員間でも情報を共有して適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者様が入院した時など安心して治療できるようにご家族様や病院関係者とも連携を図りながら寄り添った支援が出来るように努めている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化やターミナルケアの在り方などホームで出来る支援についてご家族様に説明して同意を得ている。利用者様の重度化に伴い、ご家族様と主治医とも連絡を密に取りながら方針を話し合い、関係者で共有して利用者様の終末期の支援に取り組んでいる。これまでに過去3人の看取りを行っている。	契約時にターミナルケアについて、ホームで出来る支援を説明し、同意を得ている。利用者様の重度化が進むと、家族と密に連絡を取りながら主治医も交えて今後の方針を確認し、関係者で共有して利用者様の終末期の支援に取り組んでいる。これまでに数名の看取りを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様の急変、事故発生時には提示してある緊急連絡先に連絡をして指示を仰ぎ速やかに対応できるように心がけて訪問看護に応急処置の仕方などを教えていただき職員にも元看護師がいるので教えてもらいながら対応している。訓練等は出来てはいない。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元の役場・行政区長とも運営推進会議などで災害時の避難場所など確認をしている。地域との協力体制は整っていないが火災や地震・水害などに備え施設の自衛隊の役割分担を決めて事務所に掲示している。年2回の5月・11月には地元消防署に協力をいただき避難・火災通報・消火訓練を行っている。	避難訓練を年2回実施し、1回は消防署の協力で実施している。自主防災組織で通報装置や消火器の使用方法を確認して、利用者9名を安全に避難場所に誘導出来るように取り組んでいる。また、管理者を始め、近隣に住んでいる職員が駆けつける応援体制も整えている。	災害時に備えて、非常食、飲料水、非常用備品等の準備が望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊敬しその人らしさの性格を把握し言葉使いやプライバシーには気をつけているが職員によって違いがある。	職員会議の中で、利用者のプライバシーを守る介護サービスについて話し合い、言葉や対応に注意し、入浴や排泄の場面では利用者の羞恥心やプライドに配慮している。また、利用者の個人情報や職員の守秘義務については、管理者が常に職員に伝え、周知徹底が図られている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で常日頃から利用者様を観察し声掛けもしながらその人が何を訴えているのかを傾聴している。表情、動作で何をしたいのかも職員が気づくように努めている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の決まりや都合で利用者様には接してはいない。その人らしい生活が出来るようにご本人に自由にまかせている。利用者様第一で理念に沿った支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様やご家族様の希望に沿った支援をしている。2か月に1回は訪問理容にも来てもらい希望者には散髪、カットをしていただき、その人らしい整容が出来るように支援している。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に食事後に味の感想を聞いたり、何が食べたいのか？を聞いたりして一人ひとりに合った食事形態を提供している。玉ねぎの皮むきなど料理の下準備なども手伝っていただいている。配膳や後片付けは転倒の恐れがあるため現在は行っていない。	ベテランの調理担当の職員が、畑の野菜を収穫して季節感を大切にしたい美味しい料理を利用者に提供し、職員も利用者と同じテーブルに座り、食事を一緒に楽しんでいる。行事食や誕生日の手作りケーキ、そうめん流し等、利用者の食べる楽しみの支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者様一人ひとりの日々の記録表に食事摂取量、水分摂取量を記録して少ない時には調理の工夫をしたりきざみ食や甘味、ゼリーにして水分を摂るようにするなど、美味しく摂取していただけるように支援している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者様一人ひとりが起床時、毎食後の口腔ケアを行っている。毎週木曜には訪問歯科にも来ていただいて一人ひとりに合わせた入れ歯の洗浄、消毒の管理、口腔ケアをしている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録をして毎日利用者様全員の排泄パターンを把握してほぼ全員の利用者様がトイレでの排泄をされている。一部の利用者様は居室でポータブルトイレを使用されている。	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、利用者が重度化しても、日中はトイレで排泄することを基本として、トイレでの排泄支援に取り組んでいる。また、夜間も出来るだけトイレ誘導を行い、オムツ使用の軽減にも取り組んでいる。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘になる原因など職員は理解している。水分を多く摂るように声掛けしながら毎朝歩く事も促している。排便が困難な時などは腹部マッサージを行い3日以上排便がなければ担当医と相談して便秘薬にて対応している。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は本人様の希望、その日の体調に合わせて支援をしている。入浴を拒否された時も無理強いせず本人様の希望に沿って支援をしている。日々をずらすなどして次回に入浴していただけるように努めている。	入浴は利用者の希望や体調に配慮しながら2日に1回の割合で入浴支援に努めている。湯船にゆっくり浸かり、歌を口遊んだり職員と話し込んで入浴を楽しんでいる。入浴が困難な利用者には日時を変更したり、職員が代わって声掛けし無理強いのない入浴支援に取り組んでいる。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自分らしい生活が送れるように個々の生活習慣や状況に応じて安心して気持ちよく眠れるように冷暖房、空調調節、衣類、寝具にも気を配り支援している。昼寝をされている利用者様もいる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法についても理解して毎日、必ず服薬確認を行いバイタルチェック表に記録している。薬にも利用者名、日付、朝、昼夕、寝る前を記入してあり誤薬がないようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様の得意な事や好きな事を普段の会話の中で見つけ出し楽しんでいただけているようにしている。レクや塗り絵なども声掛けをして本人様の希望に合わせて支援を行っている。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前は良く全員の利用者様で四季に応じた外出をしていたが今は認知症、身体の重度化により思うような外出は出来てはいない。一人ひとりの外出は職員が足りている時などたまに行っている。	気候の良い時期は、広い敷地の中を散歩したり、畑や花壇に植えたチューリップを見に出掛け、利用者の気分転換を図っている。外出レクリエーションを企画して、季節の花見やドライブに弁当持参で出かけ、地区の敬老会に参加する等、利用者の生きがいに繋がる外出の支援に取り組んでいる。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にはご本人様にはお金は持たせないようにしている。ご家族様にもその旨を伝えているし理解をもらえている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様がいつでも自由に事務所の電話を使えるようにしている。手紙のやり取りも自由に支援をおこなっている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関を入るとお雛様やメダカの水槽、手作りのくまもん人形、四季折々の絵を飾ったりして共有の空間が季節感が感じられるようにしている。常に小まめな掃除もして清潔を心掛けている。居室の冷暖房も個々の利用者様に合わせて調整をして支援している。	玄関には水槽、手作りのくまもん人形、鉢植え等が飾られ、季節を五感で感じながら生活感あふれる家庭的な環境である。職員は、小まめに清掃や換気を行い、整理整頓が行き届いた共用空間である。利用者は窓からチューリップの花や季節の野菜が育つ畑を見ながら、ゆったりとした居心地の良いリビングである。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	施設内は各人が自由でありホールにてテレビを観られたり、塗り絵や貼り絵をしたり、新聞を読まれたり、居室で休まれたり思いおもいの時間を過ごすように支援している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室はご本人様やご家族様の意向に沿って今まで使用されていた家具や仏壇も置いている。壁にもご家族様の写真を飾ったり自分の家だと思っていたできるように支援している。	利用者の馴染みの家具や寝具、大切な物や生活必需品を家族の協力で持ち込み、生活環境が急変しないように配慮し、その人らしい部屋となるように整え、利用者が安心して過ごせるよう配慮している。また、清掃が行き届き清潔で利用者が気持ちよく過ごせる居室である。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの出来る事やわかる事を職員は声掛けして促して支援している。安全かつできるだけ自立した生活が送れるように必要ないものは施設内には置かないようにしている。		